

Ⅱ 成果の公表

1. 普及に移した、または普及の参考となる技術情報

平成28年度 第1回農業・農村の課題調整会議

平成28年8月18日(木) 奈良県橿原総合庁舎

1) 普及に移した技術課題

1	無側枝性10月咲き二輪ギク品種「千都の恋」と「千都の粹」	花き栽培ユニット
2	高温による開花変動の少ない旧盆向け小ギク品種「春日の鈴音」	花き栽培ユニット

2) 普及の参考となる技術・情報

1	間欠冷蔵処理における遮光の有無がイチゴの頂花房の開花遅延株の発生に及ぼす影響	野菜栽培ユニット
2	イチゴ果実のビタミンC含有量の品種間差異と季節変動	野菜栽培ユニット
3	シカクマメの収量と食材特性の品種間差異	野菜栽培ユニット
4	異臭がする栽培施設で収穫されるイチゴは、食した時の香りが悪く、美味しくない(追加情報)	野菜栽培ユニット
5	シクラメンにおけるダミノジッド顆粒水溶剤散布処理の影響	花き栽培ユニット
6	<i>in vitro</i> におけるダリア球根の形成・保存	花き栽培ユニット
7	輸送時と観賞時の温度がダリア切り花の日持ち性に及ぼす影響	花き栽培ユニット
8	カキ樹幹害虫の効率的防除法	果樹栽培ユニット
9	ヒノヒカリの品質向上技術の開発	穀物栽培ユニット
10	小麦「ふくはるか」のタンパク質含有率がそうめん加工適性に及ぼす影響	穀物栽培ユニット
11	小麦「ふくはるか」を原料としたそうめんの食味調査結果	穀物栽培ユニット
12	下北春まな(赤系統)の育成および赤系統を利用した加工品の開発	植物機能ユニット・ 食品加工ユニット
13	牛ふん堆肥の連用は畝を崩れにくくする	環境保全ユニット
14	県内のイチゴに寄生するナミハダニの薬剤感受性情報 (新規殺ダニ剤 ピフルブミド・フェンピロキシメート混合剤など)	病虫害防除ユニット
15	ヤマトウキのペーパーポット育苗	菓草栽培ユニット
16	ヤマトウキの汎用掘取機(デガー)を利用した収穫	菓草栽培ユニット
17	ヤマトウキにおける夏～冬期の地上部収量および根部収量への影響	菓草栽培ユニット
18	夏秋トマトにおける土着寄生蜂を利用したオンシツコナジラミ防除	遺伝資源保存ユニット
19	パイプハウスの補強資材であるタイバーの適正な設置位置	遺伝資源保存ユニット
20	非電導性素材を用いた獣害防護柵兼用通用門の作成	鳥獣害対策研究担当
21	獣害防護柵の強化対策	鳥獣害対策研究担当

2. 農業研究開発センター成果発表会

平成29年3月15日(水)田原本青垣生涯学習センター 2階 研修室

テーマ:「6次産業化をすすめる新たなチャレンジ」

1)成果の紹介 (プレゼンテーション)

西本登志	トウガラシ新品種「やまと甘なんぼん」の育成・普及・利用
阪田星子	小麦「ふくはるか」のそうめん加工適性を向上させる栽培技術
石川亜希	富有柿を使った柿糖蜜漬けの開発
清水浩美 (産業振興総合センター)	トウキ葉の食品利用の検討と機能性成分分析

2)ポスターセッション

1	イチゴ促成栽培における花粉媒介昆虫としてのヒロズキンバエ(ビーフライ)の利用
2	奈良県農業研究開発センターで育成されたキク新品種
3	下北春まなの赤系統の育成
4	下北春まな(赤系統)の赤色を活かした加工品開発
5	調製時におけるふるい目幅の違いが水稻「ヒノヒカリ」の玄米品質に及ぼす影響
6	鶏糞を用いた液肥利用技術
7	イチゴのハダニ対策
8	県内及び近隣府県における御所柿古木の調査
9	ヤマトウキにおける葉部収穫方法の違いによる葉部収量と根部収量への影響
10	新しいお茶苗の作り方
11	耕作放棄地由来バイオマスによる土壌消毒の効果
12	極端化する気候に対するパイプハウスの対策
13	奈良にゆかりのある遺伝資源を保存するジーンバンクの開設
14	奈良県における野菜栽培での新規就農プロセスについての事例研究

3)展示・試食

展示	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマトウキの鉢植えと乾燥した根(生薬:当帰) ・タイバーで補強したパイプハウス模型と補強部品 ・水稻「ヒノヒカリ」のふるい目幅の違いによる調製後の玄米
試食	<ul style="list-style-type: none"> ・トウキ葉入り和菓子「浮島(うきしま)」 ・イチゴ(センター育成品種・系統) ・柿糖蜜漬け

3. 刊行物

【奈良県農業研究開発センター研究報告 第48号 2017.3】

[原著]

井村岳男・米田祥二	奈良県の促成イチゴ栽培におけるカブリダニ製剤を利用したナミハダニ黄緑型の防除体系の検討	48:1-6 (2017)
-----------	---	---------------

[短報]

米田健一・東井慈子・浅尾浩史	ヤマトトウキ (<i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa) における防虫ネットによるチョウ目主要害虫の防除	48:7-11 (2017)
杉山高世・阪田星子	調製時における篩目幅の違いが水稲‘ヒノヒカリ’の玄米品質や製品歩留まりに及ぼす影響	48:12-17 (2017)

[研究ノート]

神川諭	奈良県大和高原地域におけるパイプハウスの強風による倒壊被害の実態とその対策	48:18-22 (2017)
米田健一・浅尾浩史	ヤマトトウキ (<i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa) における株幅と根部収量との関係	48:23-26 (2017)

【農業研究開発センターニュース第150号 2016.6】

レタス跡・畝マルチを再利用した早生エダマメの省力栽培
夜令処理によるシクラメンの安定出荷技術
キク矮化ウイルス抵抗性キクの選抜
柿の葉生産における施肥量の検討について
薬用作物栽培の省力化
色・香味・機能性成分に優れた茶品種とその栽培・加工技術の開発

【農業研究開発センターニュース第151号 2016.12】

小麦‘ふくはるか’のそうめん加工適性を向上させる栽培技術
水稲におけるヒ素のリスク低減技術
‘下北春まな’赤系統の育成
イチゴ促成栽培におけるヒロズキンバエの利用
県内および近隣府県における‘御所’古木の調査
桜井市池之内に移転しました！

4. 知的財産権の保有状況

特許権等の名称	発明 考案者	出願 年月日	出願番号	登録 年月日 登録番号	共同開発 機関
柿タンニンの抽出方法、及びこの方法で抽出された柿タンニン	濱崎貞弘	H16. 3. 24		H22. 4. 23 特許第 4500078号	
カキ苗の周年生産方法及び苗	脇坂 勝 杉村輝彦	H18. 6. 22		H23. 11. 11 特許第 4858693号	
切り花収穫機	仲 照史 角川由加 小山裕三	H21. 10. 13		H26. 11. 7 特許第 5640270号	農業・食品産業技術総合研究機構 みのる産業(株)
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した圧カスイング法による園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 堀川大輔 後藤公美 佐野太郎 仲 照史	H22. 7. 9		H26. 7. 18 特許第 5578469号	産業技術総合研究所 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)
植物生育環境調節装置	西本登志 堀川大輔 宍戸拓樹 佐野太郎	H25. 5. 2		H27. 4. 10 特許第 5725627号	大阪府立環境農林水産総合研究所 鳥取大学 農業・食品産業技術総合研究機構 大日本プラスチック(株) (株)ヴェイル
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 仲 照史 廣岡健司 佐野太郎	H23. 9. 12	特願 2011-199050 国内優先権 2012-200204		産業技術総合研究所 農業・食品産業技術総合研究機構 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)
ピートモス組成物及びその使用方法	西本登志 安川人央 東井君枝 矢奥泰章 皆巳大輔	H26. 7. 10	特願 2014-142691		倉敷紡績(株)

品種名	育成者権者	登録年月日	登録番号
アスカルビー	奈良県	H12. 2. 4	7651号
古都華	奈良県	H23. 10. 5	21164号
春日の紅	奈良県	H25. 3. 6	22340号
千都の舞	奈良県	H28. 3. 1	24776号
千都の風	奈良県	H28. 3. 7	24876号
千都の恋	奈良県	H29. 3. 1	25768号
千都の粋	奈良県	H29. 3. 1	25769号
春日の鈴音	奈良県	H29. 3. 28	25914号
HC3-6-10-11	奈良県	出願 H27. 6. 18	出願番号30271号
春日W1(1206A65W)	奈良県	出願 H29. 3. 2	出願番号31861号
春日Y1(1205A14Y)	奈良県	出願 H29. 3. 2	出願番号31862号

5. 平成28年度 研究成果情報 (2017.3) (1課題)

No.	推進部会	成果名	ユニット名	研究担当者	分類
1	病害虫	捕食性節足動物の中腸内容物からのオオタバコガDNAの検出法の開発と生産圃場における捕食性天敵の検索	遺伝資源保存	神川 諭	研究成果情報

6. 学会・研究会誌への投稿等

著者名	タイトル	種類	学会・研究会誌名	巻号：頁	発表年月
國本佳範・今村剛士	葉片浸漬法と散布法によるナミハダニの感受性検定の比較および簡易なハダニ接種法の開発	原著	関西病虫害研究会報	58:13-16	2016.5
西本登志・後藤公美	奈良県在来の丸ナス‘矢田系’およびナスF1数品種間における調理・加工適性の差異	原著	園芸学研究	15(3):221-231	2016.7
神川 諭・竹中 勲 Satoshi Kamikawa, Isao Takenaka	A method of analyzing the gut contents of predators with a specific primer pair of <i>Helicoverpa armigera</i> (Lepidoptera: Noctuidae)	Technical Note	Applied Entomology and Zoology	51(3):501-504	2016.8
竹中 勲・國本佳範	景観と非選択性殺虫剤が露地栽培ナスの捕食性天敵ヒメハナカメムシ類 <i>Orius</i> spp. (カメムシ目：ハナカメムシ科) の個体数に与える影響	原著	日本応用動物昆虫学会誌	60(4):171-178	2016.11
仲 照史・前田茂一	栽植様式が小ギクの開花斉一性に及ぼす影響	原著	園芸学研究	16(1):41-50	2017.1

7. 学会・研究会、シンポジウム等での発表・講演

学会・研究会(口頭発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
國本佳範	葉片浸漬法と散布法によるナミハダニの感受性検定の比較および簡易なハダニ接種法の開発	第98回関西病虫害研究会大会	-	2016. 5. 19
浅野峻介	カキ炭疽病発病枝率が果樹被害に及ぼす影響	第98回関西病虫害研究会大会	-	2016. 5. 19
神川諭	奈良県の夏秋トマト栽培におけるタバコカスミカメムシによるオンシツコナジラミの防除効果の検討	関西病虫害研究会	講演要旨:151	2016. 5. 19
仲照史	奈良県農業研究開発センターでの花き研究	近畿花き研究者会議	-	2016. 7. 1
杉村輝彦	カキ樹幹害虫ヒメコスカシバとフタモンマダラメイガ	近畿・中国・四国果樹研究会	平成28年度近畿・中国・四国果樹研究会資料:42-44	2016. 7. 21
中野智彦	耕作放棄地における安定した作付け技術の開発	近畿土壌肥料研究協議会第35回研究会	7頁	2016. 8. 3
神川諭	載荷試験によるアーチパイプに対するタイバーの適正な設置位置とタイバーの留め部材強度の解析	農業施設学会	講演要旨:71	2016. 8. 29
西本登志	二酸化炭素施用技術に関する奈良県における研究と普及	平成28年度園芸学会近畿支部兵庫大会 公開シンポジウム	発表要旨集:26-27	2016. 8. 31
米田健一・浅尾浩史	ヤマトトウキの低温誘導性遺伝子の探索	日本植物細胞分子生物学会	第34回大会講演要旨集:93	2016. 9. 1
竹中 勲	露地ナスの土着天敵保護体系下におけるカスミカメムシ類の防除	第21回農林害虫防除研究会・山梨大会	-	2016. 9. 9
辻本直樹・仲照史・虎太有里	ダリア切り花の日持ち性における品種間差と形態的特性の関係	園芸学会平成28年度秋季大会	園芸学研究15別2:237	2016. 9. 10
東井君枝・西本登志・根本明季	イチゴの受粉用ヒロズキンバエの幼虫を飼養するための餌の検索	園芸学会平成28年度秋季大会	園芸学研究15別2:341	2016. 9. 11
仲照史	小ギクの採花後品質管理	小ギクの採花後品質管理に関する研究情報交換会	-	2016. 9. 12
浅野峻介	キク矮化ウイルスの接木接種における温度および台木の形態がキクへの感染に及ぼす影響	平成28年度日本植物病理学会関西支部会	-	2016. 9. 30
國本佳範	バンカーシートを用いた採種スイカでのカンザワハダニ防除	第25回日本ダニ学会	-	2016. 10. 15
今村剛士	エマメクチン安息香酸塩に対する感受性が低下したナミハダニ黄緑型個体群の発育および遺伝様式	第25回日本ダニ学会	-	2016. 10. 15
濱崎貞弘	柿渋原料果実の生産向上に向けての課題克服について	柿渋・柿タンニン研究会市民講演会	-	2016. 10. 27
藤田奈都	鶏糞堆肥を利用した有機質液肥利用技術	近畿土壌肥料研究協議会第37回総会	9-10頁	2016. 11. 11
西本登志・東井君枝・根本明季	イチゴ栽培でのヒロズキンバエ利用に関する共同研究, 本格始動!	第4回日本マゴットセラピー症例検討会	プログラム・抄録集:2	2016. 12. 3
西本登志	吸脱着剤の性能評価と貯留・供給装置の試用	研究成果発表会「これからの施設園芸のための革新的CO2施用技術と高品質多収生産モデル」	発表資料集:2	2016. 12. 5
西田一平	奈良県における野菜栽培での新規就農プロセスについての事例研究	平成28年度近畿農業経営研究会	-	2016. 12. 15
神川諭	地域未利用資源である生葉抽出残渣の肥料効果および土壌改良効果の検討	新稲作研究会	委託試験成績:195	2017. 3. 2
西本登志	カプシノイドを含有するトウガラシ新品種の育成とその販売戦略	日本農芸化学会2017年度大会シンポジウム	プログラム集:113	2017. 3. 18

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
東井君枝・西本 登志・矢奥泰 章・根本明季	施設栽培イチゴに対する花粉媒介昆虫 としてのヒロズキンバエの実用性	園芸学会平成29年度春季大 会	園芸学研究 16別1:320	2017. 3. 20
今村剛士	ナミハダニ黄緑型におけるエマメクチ ン安息香酸塩抵抗性個体群および感受 性個体群の増殖能力	第61回日本応用動物昆虫学 会大会	講演要旨 集:6	2017. 3. 28
神川 諭	奈良県の夏秋トマト栽培における 保 全的生物防除を核としたIPM体系の構 築 ～動力噴霧機出動ゼロを目指して ～	第61回日本応用動物昆虫学 会大会	講演要旨 集:65	2017. 3. 29

学会・研究会(ポスター発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
仲照史	宮城県内におけるキク矮化ウイルス 抵抗性品種の探索	園芸学会秋季大会	園学研15別 2:478	2016. 9. 10
虎太有里・浅野 峻介・仲照史・ 辻本直樹	奈良県内におけるキク矮化ウイルス (CSVd) 抵抗性小ギク品種の各種特性 における分布	園芸学会秋季大会	園学研15別 2:479	2016. 9. 10
仲照史	群馬県内の小ギク品種におけるキク矮 化ウイルス (CSVd) 抵抗性スクリー ニング	園芸学会秋季大会	園学研15別 2:480	2016. 9. 10
米田健一・浅尾 浩史	ヤマトウキ (<i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa) における地上部生育と根部 収量との関係	園芸学会秋季大会	園学研15別 2:425	2016. 9. 11
米田健一・浅尾 浩史	病害虫がヤマトウキ (<i>Angelica</i> <i>acutiloba</i> Kitagawa) の種子品質に及 ぼす影響	日本生薬学会	第63回年会 講演要旨 集:213	2016. 9. 24
米田健一・浅尾 浩史	ヤマトウキ (<i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa) 育苗期間での葉収穫が苗質 に及ぼす影響	園芸学会	園学研16別 1:381	2017. 3. 20

8. 著書・雑誌・新聞・資料等への掲載、イベント展示、報道発表、テレビ、ラジオ

(著書・雑誌)

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
石川 亜希	干し柿の試食、アンケート調査結果	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第292号:6-11	2016. 4
濱崎貞弘	くだもの百物語	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第292号:18-22	2016. 4
杉村輝彦	4～6月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第292号:45-48	2016. 4
濱崎貞弘	くだもの百物語	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第293号:22-26	2016. 7
杉村輝彦	7～9月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第293号:41-43	2016. 7
濱崎貞弘	柿づくし 柿渋、干し柿、柿ジャム、紅葉保存	—	農文協	—	2016. 7
井村岳男	植防・農薬に関する最近の話題	なら植防ニュース	奈良県植物防疫協会	第100号：3	2016. 7
國本佳範	ハダニ類防除における薬剤の付着向上の取り組みと今後の展望	植物防疫	一般社団法人日本植物防疫協会	70(8)：556-560	2016. 8
杉村輝彦	10～12月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第294号:44-46	2016. 10
濱崎貞弘	「柿の葉」の魅力	農業日誌	一般財団法人 農林統計協会	2017年度版：342-343	2016. 10
大谷正孝	薬草「ヤマトウキ」	農業日誌	一般財団法人 農林統計協会	2017年度版：370	2016. 10
濱崎貞弘	くだもの百物語	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	294号：21-22	2016. 10
濱崎貞弘	にっぽん歳時記第36回 柿実る秋	SKYWORD (JAL機内)	日本航空	10月号：77-80	2016. 1
井村岳男	日本植物防疫協会シンポジウムの参加報告	なら植防ニュース	奈良県植物防疫協会	第101号：2	2016. 11
今村剛士	第25回日本ダニ学会札幌大会参加報告	なら植防ニュース	奈良県植物防疫協会	第101号：3	2016. 11
濱崎貞弘	はじまりの奈良 vol2/柿	Discover Japan	樫出版社	12月号：166-167	2016. 11
杉村輝彦	平成28年度新農薬実用化試験成績(落葉果樹)	平成28年度新農薬実用化試験成績(落葉果樹)	一般社団法人 日本植物防疫協会	第51集	2016. 12
浅野峻介	ダリア鈴紋病の診断と検定手法	ニュースレター	生態と防除研究会	第11号：7-9	2016. 10
仲照史	小ギク・暖地の技術体系	農業技術体系花卉編	農山漁村文化協会	第6巻(ギク)：591-594	2016. 12
杉村輝彦	奈良県における今年のカキ重要害虫の発生予察と防除対策	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol. 71:65-69	2016. 4
杉村輝彦	1～3月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第295号:45-48	2017. 1
井村岳男	東海・近畿地区で最近話題になった病害虫について	なら植防ニュース	奈良県植物防疫協会	第102号：1	2017. 1
濱崎貞弘	くだもの百物語	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	295号：26-28	2017. 1
仲照史	無側枝性の二輪ギク「千都の風と千都の舞」	現代農業	農山漁村文化協会	2017年2月号:250-251	2017. 2
濱崎貞弘	関西館で柿渋イベント！？ — 柿渋の魅力と課題、そして情報基盤を考える	国立国会図書館月報	国立国会図書館	670号:18-21	2017. 2

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
上田直也	平成28年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績	平成28年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績集録	公益財団法人植物調節剤研究協会	90-93	2017.2
谷河明日香	輸出に向けた茶生産方法について	茶やまと	奈良県茶生産青年協議会	第65号:29-30	2017.2
米田健一	葉は食用に 根は生薬に ヤマトトウキは丸ごと販売で	現代農業	農文協	2017年4月号:238-241	2017.3
西本登志	Collaborative investigation just started, to use <i>Lucillia Sericata</i> as pollinator for strawberry cultivation	The Biotherapy Journal Review	BioTherapeutics, Education & Research	Volume 3 Issue Spring 2017	2017.3
仲照史	小ギクの一斉機械収穫 小ギク・暖地の技術体系	キク大事典	農山漁村文化協会	417-428、871-884	2017.3
仲照史・虎太有里	蕾で収穫した切り花を特定日に開花させる技術	キク大事典	農山漁村文化協会	455-464	2017.3
國本佳範	ナミハダニの簡易な接種法の開発と薬剤感受性検定への利用	植物防疫	一般社団法人日本植物防疫協会	第71巻(3) : 18-22	2017.3

(イベント展示)

発表者	タイトル・テーマ・見出しなど	イベント名	発表年月日
東井君枝・根本明季・西本登志	イチゴの受粉用ヒロズキンバエの幼虫を飼養するための餌の検索	アグリビジネス創出フェア2016	2016.12.14-16
西本登志・仲照史・東井君枝・根本明季	CO2吸脱着剤利用によるCO2貯留・供給システムの開発	アグリビジネス創出フェア2016	2016.12.14-16
加工科・研究企画推進課	ありそうで無かった柿の糖蜜漬け紹介	FOODEX JAPAN2017	2017.3.7-10

(報道発表)

担当	タイトル	発表年月日
果樹・薬草研究センター	「果樹・薬草研究センター開放デー」を開催	2016.11.4
研究企画推進課	農業研究開発センター「成果発表会」を開催	2017.2.27

(新聞)

発表者	タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	掲載日
濱崎貞弘	大阪・茶屋町画廊「奈良 柿渋の漆喰和壁と日用品たち」	奈良新聞	2016.6.17
濱崎貞弘	とことん柿づくし一冊出版で魅力紹介／柿博士 浜崎さん	奈良新聞	2016.7.15
仲照史	奈良県育成盆向け小ギク 開花ずれ少なく	日本農業新聞	2016.7.22
竹中勲	秋冬野菜の主要病害虫防除のポイント～虫害編	全国農業新聞	2016.8
米田健一	薬用作物産地化への挑戦⑦ 薬以外の利用	日本農業新聞	2016.12.7
濱崎貞弘	じもトビまち・ひと・わだいWEEKLY 柿づくし「加工」知識 一冊に	朝日新聞	2016.12.21

(奈良新聞「農を楽しむ」)

担当者	タイトル	所属	掲載日
藤田奈都	肥料をあげましょう	基盤技術科	2016.4.3
岡山彩子	伝統野菜「味間いも」	研究企画推進課	2016.5.1
仲照史	小ギクのはなし	育種科	2016.6.5
今村剛士	ハダニvsカブリダニ	基盤技術科	2016.7.3
石川亜希	イチジクの栄養と加工	加工科	2016.8.7
大谷正孝	カノコソウについて	薬草科	2016.9.4
谷河明日香	お茶の消費・今昔	大和茶研究センター	2016.10.2
杉村輝彦	柿の甘さについて	育種科	2016.11.6
竹中勲	海を渡って日本まで	基盤技術科	2016.12.4
神川諭	農業ハウスの気象災害	大和野菜研究センター	2017.1.1
杉山高世	小麦の品種のはなし	加工科	2017.2.5
東井君枝	花粉媒介昆虫について	育種科	2017.3.5

(テレビ・ラジオ)

発表者	番組・タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	発表年月日
濱崎貞弘	ニュースワンダー「業界イチオシスcoop・夏こそ柿！柿を徹底的に有効活用する新ビジネス」	関西テレビ	2016.8.29
濱崎貞弘	あさイチ「スゴ技Q 柿」	NHK	2016.11.28
濱崎貞弘	なら・フライデー9：もうひとつの紅葉・柿もみじ	奈良テレビ放送	2016.12.2
濱崎貞弘	Earth Walker2017「太古の島タスマニア」	BS-FUJI	2017.1.1
西本登志	みんなのニュースワンダー・なっトクマネー：みんな大好き！魅惑のいちごマネー	関西テレビ	2017.2.2
西本登志	せやねん！・メチャ売れ！！：奈良ブランドイチゴ「古都華」	毎日放送	2017.2.4
浅尾浩史	なら・フライデー9：奈良の漢方	奈良テレビ放送	2017.2.17

9. 平成28年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

平成29年2月16日開催 やまと会議室

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき平成28年度に実施した、4つの大課題に含まれる28の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

評価委員の委員長は、委員の互選によって選出（五十音順）

評価委員氏名	役職・肩書き
神澤佳子	消費生活アドバイザー
重岡 成	近畿大学農学部長
中尾静子	奈良県指導農業士会前会長
福谷健夫	奈良県農林部長
宮尾憲明	奈良県指導農業士会元会長

H26.7.

各研究課題の評価（5名の評価委員の平均値で記載）

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見							
薬用作物の安定供給	優良品種の育成	1	ゲノム育種等による優良品種の育成	4.0	4.0	4.0	12.0
			・3個の遺伝子による識別がシステム化できるようになること期待する。それらの有する機能と未開花・開花などの識別とで整合性が明確になれば良い。				
	省力・安定生産技術の開発	2	省力化技術の開発	4.8	3.5	3.5	11.8
			・最終年度としての成果として、機械およびマルチ資材の導入による省力化は評価できるが、コスト面を含め、実用化という視点でどこまで波及効果が期待できるか？ ・開発された技術が現場に導入されるように取り組みの継続をお願いします。				
			安全・安心で安定多収技術の開発	4.5	3.5	4.0	12.0
	生薬以外への利用に向けた生産技術の開発	4	安全・安心で安定多収技術の開発	・冷凍保存、施肥技術のマニュアル化を次年度明確にすべきである。			
トウキ葉の安定生産技術の開発			5.0	4.0	4.0	13.0	
優良品種の育成	商品性の高い新たなイチゴ品種の育成	5	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用品種の育成	4.5	4.0	4.0	12.5
			・それぞれに求められている品種の系統のできるだけ早急な確立により、奈良イチゴのブランドカアップにつながることを期待する。 ・マーケットの期待に応える技術の確立に近づいている。期待しています。				
		6	甘さを左右する遺伝子の解析による選抜技術の開発	4.3	2.7	2.8	9.8
・基本的な戦略での甘さが認められるが、最終的に酸性インペルターゼおよびショ糖リン酸合成酵素に注目し、それらの一塩基での違いによる識別法が、どこまで波及効果があるか疑問である。							

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見							
優良品種 の育成	産地間競争に打ち勝 つキク品種の育成	7	気象変動に左右されない安定した開花特 性を持つ小ギク品種の育成	4.7	4.0	3.8	12.5
		・早急な有望株の選抜が求められ、実質的な波及効果を期待する。					
	8	遺伝子解析技術を活用した病害抵抗性品 種の育成	4.5	3.8	4.0	12.3	
	・交配による抵抗性遺伝子の導入が可能となることは評価できる。原因となる遺伝子の 実体の解明は難しいか？						
優良品種 の育成	甘柿のない時期に出 荷できる甘柿品種の 育成	9	交配による新品種候補の作出と、遺伝子 解析による10月下旬～11月上旬に出荷で きる甘柿の早期選抜	4.5	3.0	4.0	11.5
	・昨年度からの継続として、38系統からの絞り込みに期待する。 ・今後の奈良の柿生産に必要な研究である。時間はかかるかもしれないが、地道に取り 組んでください。今後に期待している。						
優良品種 の育成	遺伝資源の保存と活 用	10	奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.3	3.7	3.8	11.8
	・交配した多くの種子から、それぞれ需要に応じた選抜のための評価系をより明確に すべきである。						
加工商品 の開発と 加工技術 の研究	イチジクなど奈良オ ンリーワン加工品の 開発	11	オリジナリティ溢れるイチジク加工新商 品の開発	4.3	3.0	3.0	10.3
		・1%ペクチン添加は評価できるが、最終年度でのイチジクの付加価値を含めたア ピール性をどこまで強調できるか。 ・市場の意見を取り入れつつ、さらに様々な加工品の試作をすすめてほしい。					
	12	奈良彩りドレッシングの開発	4.0	3.5	3.5	11.0	
	・0.05%タンニン添加で、味のこくや深みを増すという目的が達成するのか？ ・アカネの鮮やかな色がとてもよい。商品化できるとよいと思う。「ひもとおがら し」でレストラン需要を掘り起こされたが、同じようにレストランで利用してもら うなど市場化の可能性を検討してほしい。						
加工商品 の開発と 加工技術 の研究	奈良特産品の成分分 析と調理・加工法の 開発	13	辛くない燃焼成分（カプシエイト）を持 つひもとうがらしの食材活用	4.0	4.0	3.8	11.8
		・最終年度としての商品開発は評価できるが、機能性の付加価値を今後どのようにア ピールできるかが鍵となる。 ・レストランでの食材提供が軌道にのったようで成功例だと思う。今後この経験を他 の農産品や加工品にも応用して、さらに広げられることを期待しています。					
	14	大和野菜粉末と県産小麦を用いた彩りそ うめんの開発	4.0	3.0	3.3	10.3	
・試食して、もちもち感もあり、従来の三輪そうめんとは異なるものでも良いのでは と思うが、コスト面での対応の重要であろう。 ・昨年試作品より、一層食感がよくなっている。新しい奈良のそうめんのひとつに なることを期待する。							
加工商品 の開発と 加工技術 の研究	奈良特産品の成分分 析と調理・加工法の 開発	15	大和野菜の機能性評価と機能性を活か した新商品の開発	4.3	3.0	3.0	10.3
		・調理、加工でのACE阻害剤の安定性は理解できたが、最終的に食した場合の効果 がどこまで得られるかが、付加価値評価の鍵となる。					

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見							
加工商品の開発と加工技術の研究	機能性成分に着目した新商品の開発	16	糖の吸収を抑える柿タンニンを活かした「特定保健用食品」等新商品の開発	4.5	3.2	3.3	11.0
		・タンニンの糖質分解酵素阻害は理解できるが、これらの特性を奈良特産カキへの付加価値として、どう結びつけるかの戦略が必要となる。					
		17	食品添加用粉末茶とそれを用いた機能性食品の開発	4.0	3.7	3.8	11.5
		・タンニンによるカフェインの低減化は明確なものになったが、飲料となるとどのように除去するのか。粉末茶の製法技術の確立は評価できる。 ・低カフェイン化技術が昨年よりさらに向上している。今後のさらなる技術開発に期待している。					
革新的な生産技術の開発	脱化学農薬！天敵利用技術の開発	18	飛ばないテントウムシ等を用いた害虫防除技術の開発	4.0	3.2	3.3	10.5
		・最終年度として、アブラムシによるハダニ防除効果は評価できるが、生物農薬として興味あるので、継続して検討し、実質的な波及効果があるか検証すべきである。					
	19	地域や作物に応じた土着天敵活用技術の開発	4.5	3.8	3.5	11.8	
	・初年度としては、診断手法の開発は、興味ある成果である。これ以降、実際にクモ類を使って、どこまでオオタバコ被害削減に寄与するか興味ある課題である。 ・新しい発見。次年度の研究進行に期待している。						
	脱化学農薬！微生物利用技術の開発	20	土壌への定着性を高めた微生物による土壌病害防除技術の開発	4.3	3.5	3.5	11.3
		・大豆の微生物利用は、興味ある成果であるが、コスト面を含めてどこまで実用化を検証すべきである。					
耕作放棄地の再生と利活用技術の開発		21	有機物投入と太陽熱処理による耕作放棄地の再生技術の開発	4.2	3.0	3.3	10.5
		・最終年度として、放棄地の雑草・害虫被害の軽減としての技術の確立は評価できる。					
		22	土質に合った作物選択と水分管理技術の確立	4.0	3.0	3.0	10.0
		・3つの作物の収穫と水分管理との関係を、数値的により明らかなること、さらに他の作物についても検討すべきである。 ・具体的な成果が出ている。					
奈良特産品の高品質・安定生産技術の開発		23	ロボット技術やセンサー技術の活用による農作業補助機械の開発	4.7	3.3	3.5	11.5
		・開発した運搬車による生産者のストレス解消という成果は、ほぼ達成していると思うが、コスト面を含めてその波及効果を実践的なものにするには重要と思われる。					

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見							
革新的な 生産技術 の開発	奈良特産品の高品質・安定生産技術の開発	24	DNAマーカーの活用によるウイルス等の診断技術・防除対策の確立	4.0	3.0	3.0	10.0
		・診断技術を介して、芽腐細菌の伝搬経路を解明できたことは評価に値する。これ以降、生産者とともに、どのようにすれば防御できるかを、実践的に行なっていくことが必要と思われる。					
		25	チャの早期成園化技術の開発	4.7	4.0	3.8	12.5
	・本県に適した品種の選択および未収益期間の2年短縮は評価できるが、残りの期間具体的に何をどこまでやるのか？						
	26	日持ちの保証ができる「奈良の花」品質向上技術の開発	4.7	3.8	3.0	11.5	
	・食塩での日持ちおよびBAでの品質保持の成果は評価できる。これから、それらの成果を生かして、技術の波及効果となりうるのかの検証が重要と思われる。						
	奈良にふさわしいパイプハウス雪害対策技術の開発	27	耐雪対策技術の開発	4.5	3.5	3.5	11.5
		・今冬の積雪での実証試験の成果は評価できるが、今後より一層の波及効果を図るべきである。 ・低コスト化の技術成果が上がっていると評価できる					
28	雪下ろし技術の開発	4.2	3.3	3.3	10.8		
・本方法が効果的であることは理解できたが、実践的な波及効果がどこまで望めるか検証すべきと思われる。 ・昨年よりさらに工夫されて実用的になっている。							

10. 共同研究・受託研究(外部資金研究)の実施状況

研究課題名	共同研究機関	委託事業(資金)名	委託機関(契約先)	担当係・チーム・課	研究期間
施設園芸における効率的かつ低コストなエネルギー供給装置及び利用技術の開発	岐阜大学、農研機構中央農研、野菜研、産総研究所、フタバ産業(株)、東京大学、三井造船(株)、静岡大学	施設園芸における効率的かつ低コストなエネルギー供給装置及び利用技術の開発(農水省委託プロ)	農林水産省→岐阜大学	野菜栽培ユニット・花き栽培ユニット	H26～28
ナミハダニの薬剤抵抗性メカニズムの解明と管理技術の開発	生物研、京都大学、静岡県	ゲノム情報等を活用した薬剤抵抗性管理技術の開発(農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構生物研	病害虫防除ユニット、遺伝資源保存ユニット	H26～30
キクウイロイド性矮化病の罹病性検定技術の開発と抵抗性品種の選抜	農研機構花き研、群馬県、宮城県	国産花きの国際競争力強化のための技術開発(農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構花き研	病害虫防除ユニット・花き栽培ユニット	H27～31
日持ち性等に優れた性質を持つ新規有望品目の育成	農研機構花き研、秋田県	国産花きの国際競争力強化のための技術開発(農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構花き研	花き栽培ユニット	H27～31
多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発(ヤマトトウキの雑草管理軽労化技術の開発)	農研機構中央農研(株)キューホー	多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発(農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構中央農研	薬草栽培ユニット、穀物栽培ユニット	H27～31
トウキを核とした複合経営モデルの開発	山形県、宮崎県、農研機構西日本農研	薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発(農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構西日本農研	薬草栽培ユニット	H28～32
中山間の未利用有機性資源を活用した人にも環境にもやさしい土壌消毒技術の実用化	農研機構西日本農研、広島県、山口県、徳島県、山形大学、みのる産業(株)	農林水産省・食品産業科学技術研究推進事業	農林水産省→農研機構西日本農研	環境保全ユニット、遺伝子保存ユニット	H27～29
実需者ニーズに対応した茶品種の育成とその栽培・加工・利用技術の開発	農研機構果茶研、京都府、三重県、佐賀県、福岡県、鹿児島県ほか	農林水産省・食品産業科学技術研究推進事業	農林水産省→農研機構野茶研	茶栽培ユニット	H26～30
持続的な果樹経営を可能とする生産技術の実証研究(カキ産地リフレッシュ技術の確立)	福島県、和歌山県、神奈川県、(株)福島天香園、大内わら加工品(株)	食料生産地域再生のための先端技術展開事業(福島県内農業・農村分野)	農林水産省→(一社)食品需給研究センター	果樹栽培ユニット	H25～29
都市近郊エダマメ栽培体系に適応したダイズシストセンチュウの生物的防除法の開発	東京農工大学、農研機構中央農研、千葉県、神奈川県、大阪府環農水研、(株)環境管理センター	革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)	農研機構生研支援センター→東京農工大	病害虫防除ユニット、遺伝資源保存ユニット	H28～30
低コスト太陽光追従システムの農地での有効性実証	—	(民間委託試験)	ダイキン工業(株)	野菜栽培ユニット	H28
極端化する気象災害に対応する新たなハウス構造の開発	奈良高専 徳農種苗(株)	(民間委託試験)	徳農種苗(株)	遺伝子保存ユニット	H28～30
蛍光発光する蓄熱基材による温室栽培植物の育成促進と大幅省エネを実現する高機能農園芸システムの開発	—	戦略的基盤技術高度化支援事業	中小企業庁→大阪府大	野菜栽培ユニット	H27～29
地域未利用資源である生薬抽出残渣の肥料効果および土壌改良効果の検討	—	新稲作研究会委託試験	農林水産・食品産業技術振興協会	遺伝資源保存ユニット	H27～28
イチゴの育種素材の検討	—	育成系統評価試験(イチゴ)	農林水産省→農研機構野菜研	野菜栽培ユニット	H23～

研究課題名	共同研究機関	委託事業 (資金) 名	委託機関 (契約先)	担当係・ チーム・課	研究 期間
茶樹の新規育成系統における産地適性の検討	—	茶育種研究に係る系統適応性・特性検定試験	農林水産省 →農研機構 果樹茶研	茶栽培ユニット	H27～
農地管理実態調査	—	農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	農水省近畿農政局	環境保全ユニット	H25～
河川中農薬モニタリング調査	—	農薬残留対策総合調査	材料科学技術振興財団	環境保全ユニット	H26～
冬季寡日照地域のイチゴ栽培におけるミツバチの補完ポリネーターとしてのビーフライ（ヒロズキンバエ）の利用	ジャパンマゴットカンパニー、岡山大学、島根県、農研機構西日本農研	革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）	農研機構生研支援センター	野菜栽培ユニット	H28～30
イチゴ高設栽培施設における蓄熱材の利用	ヤノ技研	—	—	野菜栽培ユニット	H27～28